

報告事項サ

島根大学との連携協力推進協議会の概要について

島根大学教育学部と鳥取県教育委員会との意見交換会を開催しましたので、その概要について報告します。

平成24年10月19日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

島根大学と鳥取県教育委員会との意見交換会の概要について

教育総務課

- 1 会議の名称 島根大学教育学部と鳥取県教育委員会との連携協力推進協議会
- 2 日 時 平成24年8月31日（金） 15時20分～17時20分
- 3 場 所 ホテルハーベストイン米子
- 4 出席者 島根大学：教育学部長、副学部長、附属学校部長 他 計12名
県教育委員会：教育次長、教育センター所長 他 計7名
- 5 会議の概要
 - ・議題に基づき、双方の取組み、提案について説明し、意見交換を行った。
 - 主な発言（◇；島根大学、●；県教委）

（議題1）大学と県教育委員会が連携した現職教員研修の在り方について

〈司書教諭講習〉



- 鳥取県では、全校に司書教諭を配置をしており、有資格者の確保が必要。西部の教員が島大で資格を取れるよう、是非、何卒かの枠をいただきたい。
→◇現在の講習では、枠を増やすことは難しいが、募集状況の情報は提供できる。また、島根大学では、司書教諭資格を出す正規のカリキュラムを持っていないが、見直しして、正規のカリキュラムを作ることもあるかもしれない。検討する。

〈現職教員研修〉

- スクールマネジメント研修は、非常に魅力的な内容で、鳥取県の教員にも受講させたいが、期間設定が問題。2週間+2週間では、代員が配置できず参加しにくい。
→◇参加教員から、出るのが大変との声は聞く。研修が終わってから仕事に戻る姿も見ている。鳥取県教委からは話はないが、今後、課題として出てくるかもしれない。
- ◇ 現職教員1年短期履修コースについては、修士論文等以外の必修はなく、ほとんど自由に選択できるしくみ。実際に例はないが、夜間開校も可能としている。指導教員もつくので、個々のニーズに合わせ、オーダーメイド型教育プログラムを提供している。
- 募集締め切り（1月25日）をもう少し、遅くできないか。
→◇他学部の募集との兼ね合いもあると思うが、持ち帰って検討する。
- 中教審の答申で示された教員免許の修士レベル化について、採用された後に、修士レベルの免許を取るのは、難しいのではないかと。大学の先生が、学校に入って指導したり、現職研修等を単位制とし、修士レベルに持って行くことを検討しなければならない。
→◇現在行っている現職研修では、大学院レベルの講義内容としており、免許のとれる形に移行することを検討したいと考えている。

〈理系教員〉

- ◇ 理系好きな子どもを育てるために、理科に強い教員を養成したい、環境寺子屋という研修を設定している。すぐ授業でも使えるような内容もあり、現職教員研修にうまく使ってもらいたい。加えて、教員採用試験に是非鳥取県も理系枠を設けていただきたい。

(議題2) 学生の教育現場における基礎体験活動について

〈1000 時間体験学修〉

- ◇ 1000 時間体験学修では、単にボランティア経験するだけでなく、子どもとの接し方のスキルや姿勢なども身につく。船上山での勉強合宿の企画運営などで、企画力なども上がってくる。今年度は、体験学修経験者の追跡調査を実施し、効果検証を行う予定。

 - ◇ 学生からは、先生方が1人の子どもについていろいろな情報交換をし、担任だけでなく、全職員で関わっているのが、職員会議の様子等で、非常に参考になったと聞いた。

 - ◇ 島根大学の1000時間体験学修は、鳥取県の西部には周知されているが、中部、東部には浸透していない。学生の希望に合わせて、直接学校に行ってお願いをしている。
- 授業力だけではなく、生徒指導力や学級経営を学ぶことはとても大きい。県教委としてもいろいろな場面で体験学修を広げていきたい。

〈学生教育ボランティア〉

- 学生教育ボランティア制度では、学校からの募集と実際の活動実績数の間に乖離がある。学生の体験活動のニーズは高いとの話であったが、それを学校側のニーズとうまく繋げられないか。
- ◇平日は授業のため、ボランティアの活動は厳しい放課後の学習支援なども、授業後に通うことを考えると、活動できる学生はかなり制限される。

学生教育ボランティアでは、平日を希望される例が多いと見ており、難しいところ。

